

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラム vol. 56 内山 伊知郎 (同志社大学 心理学部)

1) 学会からのお知らせ (<http://jahp.wdc-jp.com/>)

■第30回記念大会まであと少し

日本健康心理学会第30回記念大会が、いよいよ9月2,3日に明治大学駿河台キャンパスにて開催されます。奮ってご参加いただければ幸いです。

大会ウェブサイト：<http://jahp.wdc-jp.com/conf/30th/index.html>

■機関誌 Vol. 30, No. 1 の公開

本学会機関誌「Journal of Health Psychology Research」Vol. 30, No. 1が、J-STAGE 上にて公開となりました。ダウンロードは、以下のURL よりおこなうことができます。J-STAGE にアクセスし購読者番号、およびパスワードをご入力の上、閲覧してください。購読者番号、パスワードがご不明な方は、事務局までお問い合わせください。

J-STAGE：<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jhpr/-char/ja/>

■ニューズレターの刊行

本学会ニューズレター「ヘルスサイコロジスト」No.73, および号外が刊行されました(添付ファイル参照)。No.73 では、健康心理学、および学会の動向が紹介されています。号外では、第5期理事長の就任にあたって、竹中理事長より本学会が今後取り組む課題等が挙げられています。

2) 健康心理学コラム Vol. 56

「児童の健康と心理学」

内山 伊知郎 (同志社大学 心理学部)

近年、児童期の心の健康に関して、問題が多様化し、深刻化していることが指摘されています。文部科学省は2017年3月に「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援」という冊子を作成し、教職員が学校医、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等のスタッフとともにチームで取り組む必要性を指摘しています。そこでは、児童が健康の保持や増進に必要な知識を習得すること、自己有能感や自己肯定感、自ら意思決定し行動する能力、そして他者と関わる能力を涵養することが必要であるとされています。これらは、健康に関する心理学の貢献が期待される内容です。

ただ、小学校は1年から6年まで、学校に在籍する年数としては最も長く、発達が著しい時期でもあります。認知発達をピアジェの理論にあてはめてみると、低学年では児童期の第一ステップとなる主観性の脱却、高学年では第二ステップとなる抽象的な思考の理解が特徴で、大きな質的な進展を示します。

したがって、児童期には単一の健康心理学的な対処にとどまらず、そのメカニズムを発達段階に合わせて解明し、それに基づく対処法を見出す必要があります。そして児童期を通じた総合的な知見を明らかにすることが求められていると思います。児童期は幼児期の後、思春期の入り口までの時期で、健康に関する基礎的な知識を習得し活用を始める時期ですから、健康観の基盤づくりに関する大切な研究となると思います。

-----

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 < [jahp-post@bunken.co.jp](mailto:jahp-post@bunken.co.jp) >

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで

広報委員会 < [jahp-ML@bunken.co.jp](mailto:jahp-ML@bunken.co.jp) >

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます

<http://jahp.wdc-jp.com/health/health1.html>